

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176503165	
法人名	ALSOK介護株式会社	
事業所名	グループホームみんなの家・大宮吉野町	
所在地	さいたま市北区吉野町1-356-1	
自己評価作成日	令和3年10月11日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア	
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地	
訪問調査日	令和3年11月12日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍でご家族の面会や外出に制限がある為、ホーム内で楽しく過ごせるよう個々の得意な事や趣味を生かしながら活躍の場を設けたり、リモートの体操教室や運動会、盆踊り等楽しく体を動かせる行事に参加して頂いたり、懐メロ等の番組を録画し何時でも見られるように工夫している。また、おやつ作りにも力を入れ、作っている過程を見る、参加する事で、美味しく楽しく過ごせるように日々の生活にご利用者様と職員が一体となり職員が一人一人の心地よい存在に感じて頂ける様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

埼玉新都市交通ニューシャトル「今羽駅」から徒歩7分、清閑な住宅地の中にある2階建て2ユニットのグループホームである。ホームでは入居者の得意なことや趣味を生かし、活動の場を設けたり、懐メロの番組を録画して楽しんで頂いている。コロナ禍で外部の方の訪問を制限しているため、ブログを活用し、普段の生活の様子を積極的に発信し、家族や関係者に見て頂いている。エントランスには観葉植物や縁台があり、日光浴を楽しめるようにしている。館内は清掃が行き届き、綺麗なフロアには季節感のある飾付けをし、環境整備に気を配っている。おやつ作りを絡めたレクリエーションを行い、みんなで食べる楽しみを感じて頂いている。前年度の課題である「外出支援」については長引くコロナ禍により、思うように行かない部分ではあるが、感染対策を施して外出を少しづつ行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍でもホームの様子や活動などを伝え、関係性を保ち、収束後の再開に向け、理解と協力が得られるよう、取り組みを継続していくことが望まれる。	各構成メンバーにホームの活動を発信する。	今年度の活動を書面にし配付する。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で話し合い理念を決めエントランスに掲げ皆で共有している。	職員会議で話し合った理念を玄関に掲げ、職員と共有をしている。月1回の職員会議で振り返り、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の盆踊り、運動会等の催し物等可能な限り参加して交流を深めていた。(コロナ渦で中止となっている。)	自治会に入会しているが、現在、コロナ禍により交流の機会がない状況である。建物裏手にある「ふれあい農園」に散歩に出掛け、地域の方から野菜を頂いたり、言葉を交わしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方からの電話での相談や、突然の見学があった際には、可能な限り相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの取り組みについて報告しております。報告の中で出席者から得た意見や情報をケアに反映出来るよう努めている。(現在中止中)	現在、コロナ禍により運営推進会議は実施できていない。管理者は収束する迄、中止する旨の案内を包括支援センター、自治会長宛に提出している。	コロナ禍でありやむを得ない面もあるが、ホームの様子や活動などを伝え、関係性を保ち、収束後の再開に向け、理解と協力が得られるよう、取り組みを継続していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故が発生し入院や通院に至った際には市町村へ報告しホームの状況を把握していただける様努めている。	市の担当者とはメールや電話でやり取りをしている。ホームの状況を積極的に伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進についての書面をエントランスに掲げ認識を高めている。また、拘束することで起こりうるリスクについても理解している。身体拘束委員会を3か月に1回研修を年2回実施している。	身体拘束防止委員会を3ヶ月に1回、研修を年2回、虐待防止委員会は年4回、研修を1回実施している。職員の理解度は高く、皆で拘束をしないケアについて話し合い、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無理なケアを行わない様ケアカンファレンスを行い、個々のケアの方法等を話し合い、お互いに気持ちよくケアが出来るよう努めている。虐待防止委員会を年4回研修を年1回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の際に包括支援センターの方に成年後見制度について話をいただいた。また、ご家族様より相談があった際には、主治医との掛け合い等のお手伝いをさせて頂く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、解約内容は勿論の事、質問事項もあわせ説明させていただいている。退去の際には介護連絡表を作成し転居先で困らない様支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明確にし、エントランスホールの見やすい場所に掲げている。また、直接だと話づらいご家族様へは意見箱を設置してご意見を頂き易い状況に努めている。	苦情相談窓口を玄関に掲示し、言いやすい環境づくりを心掛けている。面会時に家族と話す機会が多いが、運営に関する意見はほとんどない状況である。利用者には、日々の会話で「どんな生活がしたいですか」と問いかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では職員の意見を取り入れ、職員、ご利用様様が気持ちよく過ごせる環境を心がけている。	月1回の職員会議で意見を聞いている。また、業務中、あらゆる場面で意見を言ってもらい、より良いケアができるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得へ積極的に支援し、いつでも相談できる働き易い職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職階別の研修には必ず参加するよう働きかけている。また、自己啓発として、個々に必要な研修には、声を掛け参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へのヘルプや研修を通して他ホームの職員と交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時に必ずご本人様とお話し、気持ちを受け止め安心していただける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や実態調査時にはご家族様の話に耳を傾け、安心して任せていただける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の話を良く聞き、ケアプランや実際のケアに反映出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を中心にご利用者様の得意分野が発揮できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、スタッフ、ご利用者様と共にレクリエーションをおこなったり、皆で会話をしながら過ごして頂くこともあり、信頼関係をより深めて行ける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外、友人、知人の面会も認めている。また、文通や電話をされたりと交流を図っている。	11月1日よりワクチン証明の提示を頂き、検温後他の家族と被らないよう予約制にし、居室での面会を開始した。15分程度に制限しているが、予約が入ってきており、利用者も喜んでいる。また、電話や手紙などで交流支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間と隣席にしコミュニケーションが図りやすい様配慮している。孤立しがちな方には、世話や話好きな方と席を近くする等の配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様から電話を頂いたり、入居先に会いに行ったりと交流させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン見直し時に、ご利用者様、ご家族様に意向を伺っている。聞き取りが困難なご利用者様にはカンファレンスにて話し合い検討している。	一人ひとりの思いや意向は、ケアプランの見直し時、本人、家族に伺い、カンファレンスにて職員で話し合い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の協力も得ながら、生活暦等の把握に努め、日々のケアに生かすようにしている。今までの生き方を尊重する姿勢を常に持つよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を細かく書く事により把握している。また、心身状況等は生活を共にする中で把握し状態が思わしくない時には原因追求をし早期解決出来るよう努めている。連絡ノートの活用、口頭での申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族様の意向を生かしたプランになる様、サービス担当者会議を開催し話し合いの場を設けている。「～出来ない」というマイナスな考えではなく本人の意欲が引き出せる様な言葉を使いプランを作成している。	サービス担当者会議を開催し、本人や家族の意向を生かしたプランになるよう、職員と話し合い本人の意欲が引き出せるような言葉を使い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話の内容や行動、ケアの工夫新たな発見等を生活記録に記入している。また、個別にカンファレンスの記録も記入しケアプランの見直しの際に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況やご利用者様の希望に沿いながら、介護タクシー等に協力していただき結婚式出席、墓参り等が実現できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	懐メロを唄ってくださるボランティアを招いたり、包括支援センター職員よりキャラバンメイトの講習、避難訓練では消防署に協力して頂いている。 (現在は中止中)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療機関の説明をし、往診医がかかりつけ医になられている方がほとんどですが、精神科、神経内科等の受診の必要がある方は、入居前からの専門医にご家族様の協力にて受診されている。	協力医療機関と歯科の往診が月2回あり、歯科衛生士の訪問が毎週ある。これまでのかかりつけ医の受診については家族対応としており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問時には、ご利用者様の健康チェック等を行い、ご利用者様、スタッフの良き相談相手となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にお見舞いに行き、状態把握に努めている。また、ご家族様への連絡も密に行い、情報収集し早期退院に繋がる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた際には、医師、ご家族様と相談し方針を決めて行く事になっている。また、重度化に伴い、ご家族様への連絡を密に行い状態をみて頂きながら、ケアの方向性を話し合っている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明をしている。重度化に向けての対応は医師より十分な説明を行い、家族の意向を確認しながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全対策会議、研修、職員会議等で勉強の場を設けているが、実践で身に付けて行く方が多い。緊急時の連絡方法は周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて避難方法等を消防署員に相談しながら身につけている。また、自治会加入により災害時には自治会消防団の方が駆けつけて下さる仕組みになっていると自治会長からお話があった。	年2回の防災訓練を実施しており、職員は避難方法を身につけている。自治会長より、火災時には自治会消防団が駆けつけてくれることになっており、協力体制が築かれている。自然災害時の水や食料の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりに合わせ、伝わりやすい言葉を選んで言葉がけをしている。個人情報となる記録は、鍵の掛かる場所に保管している。	一人ひとりに合った伝わりやすい言葉を選び、言葉掛けを行っている。誇りやプライバシーに配慮した対応を心掛けており、職員と共有し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた言葉を選び分りやすく会話をしたり、ご利用者様同士の会話の橋渡しを行いスムーズに話が出来る様努めている。ご利用者様の言動や行動に注目し、気持ちを理解する様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペースを大切に頂き、日常生活の中で自己決定できる様支援している。外出や、「～したい」という希望には極力応えられるように配慮し、ご利用者様が快適に生活出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各自で好きな服を着ていただいたり、化粧を施したりしている。月1回の訪問美容では事前にご利用者様から希望を伺い先方へ連絡している。希望を上手く伝えられない方には、職員がフォローし身だしなみに注意を払っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員もご利用者様と一緒に食事を摂っている。食事中はテレビを消し、会話を楽しむ雰囲気を作っている。また、食事の盛り付け、後片付け等も無理強いない様配慮した上でお手伝いして頂いている。	職員も一緒に食事をしており、会話を楽しむ雰囲気づくりをしている。出来ることを手伝って頂き、食事作りに参加する楽しみを感じて頂いている。おやつ作りも一緒にいき、大福やわらび餅など好きなものを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食と副食に分けた食事摂取量、また水分摂取量のチェックを行っている。摂取量が少なくなってしまう際には、ご利用者様の嗜好にも目を向け食が進む様に工夫している。ご家族様にも教えて頂きながら、好きな食べ物や習慣に目を向けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアとして、うがい、歯磨き、義歯洗浄など、各人に合わせた対応を行っている。歯科医や衛生士からの助言も参考にして、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を十分に活用し、個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄出来る様早めのトイレ案内を行っている。声がけは羞恥心に配慮し、さり気なく行っている。	排泄チェック表を活用し、個々のパターンを把握して早めの誘導を心掛け、トイレでの排泄を基本とした自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し排便パターンの把握を行なっている。便秘予防の為に、水分補給や体操、腹部マッサージ等を取り入れている。また医療機関と連携を取りながら便秘予防の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望に合わせていつでも入浴出来る様準備している。足浴だけの場合もあり無理強いないようにしている。	入浴日を固定せず、原則午前の時間帯で1日3名ずつ支援を行っている。拒否される方は無理強いはせず、臨機応変に対応している。ゆず湯や菖蒲湯で会話をしながら楽しい入浴を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は各人の生活パターンに合わせた時間となっている。夜間は不安が高まってしまう方もいるが、見守りや声がけを行い安心出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理表はすぐに見られる場所に保管しており、理解を深められるように努めている。服薬の介助に関しては、各人の能力に合わせて行い、声だしチェックにて誤薬が起きないように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物畳みなどのお手伝いを通して役割を持っていたり、歌や、塗り絵、家庭菜園などの長年の趣味を継続しているなど、日常の中で楽しみや活躍の場がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、希望に沿って外出の機会を作っている。必要に応じて車椅子の使用を行い、外出が安心して楽しいものとなるよう支援している。	コロナ禍により、遠方に出掛けることが出来ないため、毎日、近隣への散歩や近くの店に買い物に出掛けている。車いすの方も一緒に出掛け、安心・安全に留意し、楽しい外出となるよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際見守りで支払いされる方や、財布とお金を持っているだけで安心出来る方など、各人の希望や力に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えるようにしている。電話が掛かってきたらとりつぎをし、椅子を用意するなど、会話を楽しめるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エントランスには観葉植物や縁台を置き、日光浴を楽しめるようにしている。また、食堂や廊下は、電球色の照明にし居心地の良い暖かさの配慮をし動線には障害物がない様になっている。また、季節の装飾をほどこし、見て楽しめる環境に努めている。	玄関に観葉植物や縁台を設置し、日光浴を楽しんでいる。リビングには季節に合った絵や季節の花を飾っている。場所に合った照明に配慮し、食堂や廊下は電球色の明かりで温かい雰囲気演出し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置にも配慮し、気の合ったご利用者様同士が楽しく過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や家具、思い出の写真や仏壇などを持ち込まれ、居心地の良い居室作りをしている。	安心して過ごして頂くため、馴染みの物、使い慣れた家具や思い出の写真を、仏壇などを持ち込んでいる。職員は毎日部屋の掃除をし、清潔な環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホワイトボードを活用したカレンダーや大きめの時計、トイレの札や居室の表札など家庭的な雰囲気を壊さずに目印となるものを設置している。トイレの場所を貼り紙したことにより、居室内での放尿が減った方もおり失敗を防ぐ工夫を行っている。		